



## 2. 凍霜害対策について



### (1) 危険予測

午後6時の気温が10℃以下で1時間に1℃以上の気温の低下がみられる晴天無風状態では、翌朝に降霜の危険性があります。低温注意報、霜注意報等の発令に十分注意するとともに、自らの果樹園の気温を測って対策を講じましょう。

### (2) 凍霜害の安全限界温度（福島県農業総合センター果樹研究所より）

表2 りんご（ふじ）の凍害を受ける安全限界温度※（℃）

発芽期	展葉初期	花蕾露出期	花蕾着色期	開花始	満開期	落花期
						
-2.1	-2.1	-2.1	-2.0	-1.5	-1.5	-1.7

※安全限界温度：植物体温度が当該温度以下に1時間おかれた場合に、被害がわずかでも発生するおそれがある温度。

### (3) 予防対策

- ① 敷きわらや雑草等は、日中の地温上昇を妨げ冷気を溜めてしまうので、敷きわらの除去や下草の草刈りを行いましょう。
- ② 冷気の流れがせき止められるような位置に防風ネット等の遮へい物があると果樹園内が低温になるので、障害となるものは巻き上げるか除去しまししょう。
- ③ 晩霜対策には重油や固形燃料利用、防霜ファン、散水凍結法等があります。燃焼による対策を行うときは、事前に地域住民の理解等（消防署への連絡）を得ておくようにしまししょう。

### (4) 凍霜害被害にあった場合

・結実量を確保するために、授粉回数を多く、なおかつ花粉の希釈をしないで、「生づけ」することをおすすめします。おしべが被害を受けても、めしべが正常か多少の被害であれば結実が期待できるので被害の程度を確かめて授粉しまししょう。

・特に被害を受けた果実はサビ果や奇形果になりやすいので、仕上げ摘果は障害状態が分かった後に行ってください。幼果期（満開1週間後頃）に霜害に

あった場合、さびは3～4週間経ってから現れてきたり、さびの部分から裂開したりする場合もあるので、随時園地を見回り、程度がひどい場合は摘果しまししょう。

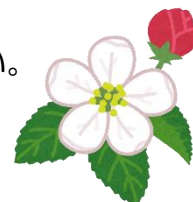
・着果量が少なくなると樹勢が強くなるので、新梢管理を徹底してください。

・ほとんど着果がない場合でも、通常の防除は行ってください。

・果樹共済に加入されている方は、被害にあった旨を共済組合までご連絡ください。



写真 正常な花芽と凍霜害の被害を受けた花芽  
〈左：正常な花 右：凍霜害に遭遇した花〉



# りんご生育情報(5月号)

令和7年5月21日発行

【発行】宮城県登米農業改良普及センター

電話 0220-22-6127

HP <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

普及センターのホームページでは、過去の技術情報も掲載しています。お手持ちのスマートフォンなどで右のQRコードを読み取るとホームページへ移動できますので、ご利用ください。



## 1. 本年の「ふじ」生育状況及び開花予想



今年度のりんごの生育は、発芽期が3月31日（平年差+6日）と大きく遅れて始まりました。4月上旬は気温が低く、生育の進行は緩やかでしたが、以降は気温の高い日が続き、開花始期（4月28日、+2日）や満開期（5月4日、+3日）の遅れはやや縮まりました。5月5日から9日までの平均気温は平年並み～やや下回る日が続き、その影響で落花が緩慢となり、落花期は5月15日（+7日）となりました。発芽期から落花期にかけて平年よりも遅れた要因として、4月の日照時間が不足していたこと（4月平年比71%）に加え、3月下旬から5月上旬にかけて気温が平年を下回る日が複数回出現したことが影響したと考えられます。

表1 令和7年度の生育状況結果（調査地：東和町錦織）

	発芽期	展葉期	開花始期	満開期	落花期
本年	4月6日	4月10日	4月28日	5月4日	5月15日
前年	4月3日	4月10日	4月22日	4月28日	5月5日
平年	3月31日	4月8日	4月26日	5月1日	5月8日
前年差（日）	3	0	6	6	10
平年差（日）	6	2	2	3	7

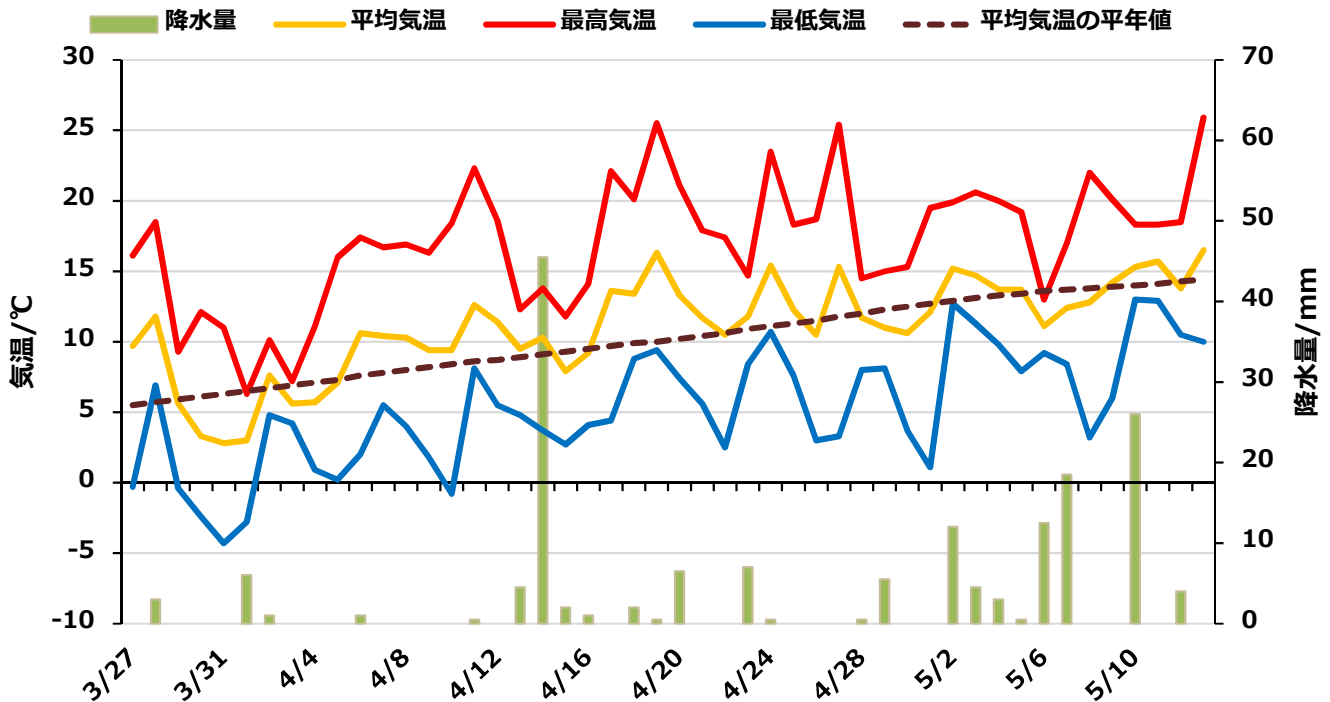


図1 3月27日～5月13日の気温・降水量の推移（アメダス地点：米山）





## 2. 今後の管理（摘果）について

発芽から開花までの生育には貯蔵養分が使われますので、結実が多ければその分貯蔵養分が多く消費されます。果実の細胞分裂は、開花4週間後頃には停止し、それ以降の果実肥大は主に細胞の肥大によりますので、早期に摘果することで大玉果が期待できます。

### (1) 人手による摘果

中心果のガク立ちを確認したら、着果位置の悪いもの（腋芽果、枝の真上・真下など）から果そうごと摘果します。「ふじ」では、青み果などの不良果実になりやすいため果台が長い果そうも全摘果します。6月に高温や日照不足が続き、新梢と果実間の養分競合が激しくなるとシュートドロップが発生しやすいので、シュートドロップが発生しやすい品種では落花10日頃までには、良好な中心果を残し1果そう1果とします。

主要品種の適正な着果程度は表2のとおりです。ただし、樹勢など生育状況に応じて加減してください。特に、「ふじ」の場合は過着果すると隔年結果を起こしやすいので、成らせすぎないように注意してください。

仕上げ摘果の完了時期の目安は以下のとおりです。

- ・結実が良好な品種：**落花25日後まで** ※「ふじ」「つがる」「王林」など
- ・生理落果の多い品種：**落花30～35日後まで** ※「紅玉」「ジョナゴールド」など

表2 標準的な着果程度

品種	摘果の強さ
紅玉	3頂芽に1果
つがる、 ジョナゴールド	3.5頂芽に1果
ふじ、王林、シナノゴールド、きおう、シナノスイート、ぐんま名月、はるか など	4頂芽に1果
北斗	4.5頂芽に1果
陸奥、世界一	5頂芽に1果

### (2) 薬剤による摘果

薬剤はミクロテナポン水和剤85（倍率：1、200倍、使用時期：満開後1～4週間、展着剤を加用すると効果的）を使用します。この薬剤は、発育の遅れた生育の悪い果実に作用しますので、頂芽中心果と側果の発育に差があるほど高い効果が得られます。

散布時期は「**ふじ**」が**満開2週間後頃**、他の品種は満開3週間後頃が基本となります。果径で判断する際は、「**ふじ**」で**頂芽の中心果の横径10mm程度**が目安となります。この薬剤は散布後気温が高く推移すると効果が高まります。ただし、年によって効果の発現が遅れたり、不十分な場合もあるので、仕上げ摘果は遅れないようにしましょう。

「つがる」、「ジョナゴールド」、「世界一」など年によりシュートドロップが多い品種や「ぐんま名月」は、本剤がかかると落ちすぎることもあるので注意してください。また、「恋空」「シナノゴールド」「きおう」は本剤による摘果効果は低いです。

参考：「りんご生産指導要項2024-2025」（公益財団法人青森県りんご協会）  
「みやぎの果樹指導指針」平成5年3月（農林水産省）

※掲載されている農薬は令和7年5月1日現在の登録状況を確認しています。  
使用する際は、事前に最新情報で農薬登録を確認の上、使用してください。



# りんご生育情報(6月号)

令和7年6月20日発行

【発行】宮城県登米農業改良普及センター

電話 0220-22-6127

HP <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

普及センターのホームページでは、過去の技術情報も掲載しています。お手持ちのスマートフォンなどで右のQRコードを読み取るとホームページへ移動できますので、ご利用ください。



## 1. 果実肥大状況

6月9日現在の「ふじ」の果実肥大状況は、タテ径 30.7mm (平年比:106%)、ヨコ径 27.8mm (平年比:103%)と平年並となっています。

表1 果実肥大調査結果 (mm)

	タテ径	ヨコ径
本年	30.7	27.8
平年値	29.1	27.0
平年比	106%	103%

※東和町の測定値。

## 2. 病害虫の発生状況

宮城県病害虫防除所が6月4日に発行した発生予報第3号では、**斑点落葉病**、**キンモンホソガ**が「多い」、**モモシンクイガ**の発生量が「やや多い」と推測されています。

表2 宮城県病害虫防除所発生予報第3号 (令和7年6月4日発行)

病害虫名	発生量	予報の根拠
斑点落葉病	多	巡回調査の結果、新梢葉における発生地点率及び発病葉率は平均より多かった。
キンモンホソガ	多	巡回調査の結果、新梢葉における発生地点率及び発病葉率は平均より多かった。
モモシンクイガ	やや多	前年の発生量が平年並だったことから、越冬量は平年並だが、向こう1か月の平均気温は高いと予報されており、20~25℃の気温が発生に好適であるため、発生はやや多いと推測される。

カメムシ類については、被害果実を見つけ次第摘果するとともに、園地への飛来数が目立つ場合は、カメムシ類に登録のある農薬の散布をおすすめします。

梅雨時期に入り、防除間隔も長くなりがちですが、天気予報を確認しながら「**降雨前散布**」を心がけましょう！

### ◆6月の重点防除対象病害虫

- ・病害：斑点落葉病、輪紋病、炭疽病、褐斑病
- ・虫害：アブラムシ類、シンクイムシ類、カメムシ類、ハマキムシ類



斑点落葉病



褐斑病



クサギカメムシ(左下:幼虫)

### 3. 今後の管理について

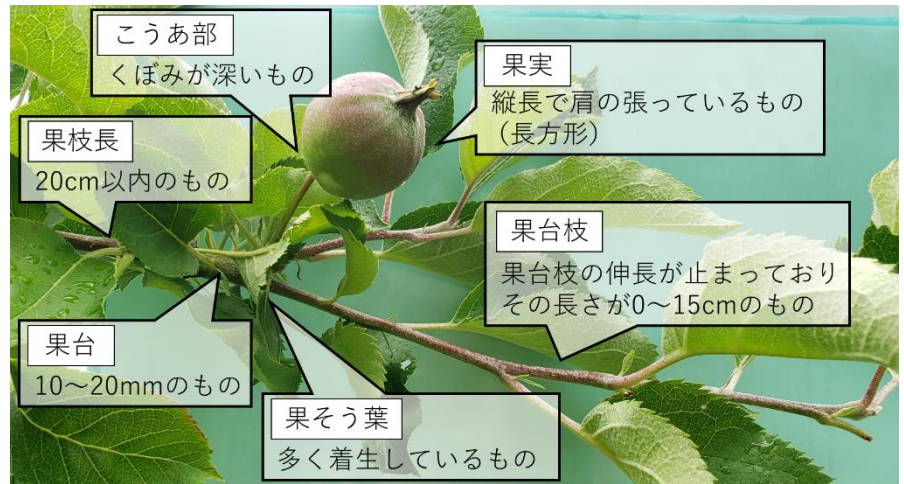
#### (1) 仕上げ摘果

##### ◆適正着果基準

品種	摘果の強さ
紅玉	3頂芽に1果
つがる、ジョナゴールド	3.5頂芽に1果
ふじ、王林、シナノゴールド、シナノスイート、ぐんま名月 など	4頂芽に1果

##### ◆残したい果実

- ・果そう葉が着生している果実
- ・中短果枝の果実
- ・縦長で肥大良好な果実
- ・果柄が太く長い果実



#### (2) 新梢管理

徒長枝は、樹冠内部や下枝の果実の受光量を低下させ、薬剤透過性も悪くなります。また、徒長枝が吸収した養分、作った物質は果実の肥大や糖度向上のためにほとんど使われないと言われているため、発生状況をみながら徒長枝切りを行いましょう。

##### ◆作業時期：6月下旬～8月始め（貯蔵養分を使いきったタイミングから始める）

※樹勢を落ち着かせることを考えた場合。

強樹勢の場合⇒1回目：6月中、2回目：8月上旬、3回目：摘葉時期

適正樹勢の場合⇒年2回（上記1回目及び2回目）

##### ◆整理方法：①その後の発生を抑える場合

⇒基部は残さずきれいに剪除する

②枝を再発生させたい場合 及び

③側枝がはげ上がりやすい品種（「つがる」、「ジョナゴールド」、「王林」等）

⇒基部を数mm残して剪除する

参考：「りんご生産指導要項 2024-2025」（公益財団法人青森県りんご協会）  
「果実日本 5月号 2020 vol.75」（日本園芸農業協同組合連合会）  
「農業技術体系 りんご編」（農山漁村文化協会）

#### 🍏 春の農作業安全確認運動実施中 🍏（3月1日～6月30日）

～スローガン「徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策」～

◆シートベルト、ヘルメット着用の徹底！

◆危険個所では原則、迂回を！

#### 🍏 農薬危害防止運動実施中 🍏（6月1日～8月31日）

◆農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう！



# りんご生育情報(7月号)

令和7年7月17日発行

【発行】宮城県登米農業改良普及センター

電話 0220-22-6127

HP <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

普及センターのホームページでは、過去の技術情報も掲載しています。お手持ちのスマートフォンなどで右のQRコードを読み取るとホームページへ移動できますので、ご利用ください。



## 1. 果実肥大状況

7月10日現在の「ふじ」の果実肥大状況は、タテ径97%、ヨコ径96%とほぼ平年並となっています。

表1 果実肥大調査結果 (mm)

	タテ径	ヨコ径
本年	44.2	47.2
平年値	45.8	49.1
平年比	97%	96%

※東和町の測定値。

## 2. 病害虫の発生状況

宮城県病害虫防除所が7月2日に発行した発生予報第5号では、**褐斑病**、**キンモンホソガ**は「多い」、**斑点落葉病**、**アブラムシ類**の発生量が「やや多い」と推測されています。また、**ハダニ類**の発生量は「平年並み」となっています。

病害虫名	発生量	予報の根拠
褐斑病	多	巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや高く、発病葉率は平年より高かった。 登米管内においても発生がみられる。
キンモンホソガ	多	巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや高く、被害葉率は平年より高かった。
斑点落葉病	やや多	巡回調査の結果、徒長枝葉及び新梢葉における発生地点率は平年並で、徒長枝葉の発病葉率は平年よりやや高く、新梢葉の発病葉率は平年より高かった。
アブラムシ類	やや多	巡回調査の結果、発生地点率及び寄生新梢率は平年並だった。
ハダニ類	平年並	巡回調査の結果、ハダニ類の寄生は確認されなかった。

### ◆ハダニ類対策について

梅雨明け後は、気温が高いため短期間で高密度になりやすいです。防除のタイミングを誤ると一気に樹上密度があがり、園地全体に蔓延してしまうので、園地を良く観察しながらハダニ類が**1葉当たり3頭以上**寄生している場合には防除を実施するようにしましょう。

薬剤抵抗性の発達防止のため、IRACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行いましょう。



### 3. 今後の管理について～夏期管理～



#### (1) 支柱立て、枝つり

##### ◆ねらい

- ①樹全体にむらなく日光の透射を図り、葉の働きを盛んにし、果実品質の向上と翌年の花芽分化発達を良好にする
- ②散布薬剤の到達、付着を良くし、病虫害防除効果を高める
- ③枝の配置を矯正し、枝の裂傷、折損の防止、樹形の維持・確立を図る

##### ◆実施上のポイント

- ・骨格枝…しっかりした支柱を用いて、枝の状態を見ながら押し上げるように立てる。
- ・側枝…マイカ線などの縄で吊り上げる。樹冠下の作業が容易になることから可能な限り枝吊りを実施する。
- ・樹形構成に十分注意し、上げるべき枝と下げるべき枝を区別して実施する。

#### (2) 下草管理

草生栽培園では草刈機による刈り取り、苗木養成畑などは人手による除草が望ましいですが、労力的に間に合わない場合や草刈機を使用できない場所では除草剤を利用しましょう。

##### ◆実施上のポイント

- ・一年生雑草、多年生雑草の発生状況に応じて薬剤を選択する
- ・雑草の密度が低い場合⇒散布量または投薬量の少ない方を選択  
雑草の密度が高い場合⇒散布量または投薬量の多い方を選択
- ・**散布時期は雑草の草丈が 30cm 以下の時期とし、種子の飛散を防ぐため雑草の開花前に散布する。**また、薬害を出さないため樹体に直接かからないようにする。

表 2 主な除草剤の使用法（令和 7 年 7 月 1 日登録状況）

除草剤名	作物名	適用雑草	希釈倍数 使用量	使用方法	使用時期	使用回数	散布液量	作用
バスタ液剤	りんご	一年生雑草	300 ~ 500ml/10a	雑草茎葉 散布	収穫 21 日前まで (雑草生 育期)	3回以内	100 ~ 150L/10a	接触性
		多年生雑草	500 ~ 1000ml/10a				少量散布：30 ~40L/10a	
ザクサ液剤	りんご	一年生雑草	300 ~ 500ml/10a	雑草茎葉 散布	収穫 21 日前まで (雑草生 育期)	3回以内	100 ~ 150L/10a	接触性
		多年生雑草	500 ~ 1000ml/10a					
ラウンドアップマックスロード	果樹類 (かんきつを除く)	一年生雑草	200 ~ 500ml/10a	雑草茎葉 散布	収穫 7 日 前まで(雑 草生育期)	3回以内	通常散布：50 ~100L/10a	移行性
		多年生雑草	500 ~ 1000ml/10a				少量散布：25 ~50L/10a	
		スギナ	1500 ~ 2000ml/10a					

参考：「りんご生産指導要項 2024-2025」（公益財団法人青森県りんご協会）  
「みやぎの果樹指導指針」（宮城県）

🍏 農薬危害防止運動実施中 🍏（6月1日～8月31日）

◆農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう！



# りんご生育情報(8月号)

令和7年8月15日発行

【発行】宮城県登米農業改良普及センター

電話 0220-22-6127

HP <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

普及センターのホームページでは、過去の技術情報も掲載しています。お手持ちのスマートフォンなどで右のQRコードを読み取るとホームページへ移動できますので、ご利用ください。



## 1. 果実肥大状況

8月12日現在の「ふじ」の果実肥大状況は、タテ径95%、ヨコ径96%とほぼ平年並となっています。

表1 果実肥大調査結果 (mm)

	タテ径	ヨコ径
本年	56.8	64.3
平年値	59.7	66.4
平年比	95%	96%

※東和町の測定値。

## 2. 病害虫の発生状況

宮城県病害虫防除所が8月1日に発行した発生予報第7号では、褐斑病の発生量が「多い」、斑点落葉病は「やや多い」、果樹カメムシ類の発生量が「多い」と予報されています。また、ハダニ類、キンモンホソガの発生量は「平年並み」となっています。

表2 宮城県病害虫防除所発生予報第7号(令和7年8月1日発行)

病害虫名	発生量
褐斑病	多
斑点落葉病	やや多
果樹カメムシ類	多
ハダニ類	平年並
キンモンホソガ	平年並

りんごにおける7月下旬の巡回調査の結果、発生地点率及び被害果率は平年より高く、過去10か年で最も高かったことが報告されています。7月下旬(誘殺期間:7月中旬~7月下旬)のフェロモントラップ調査(県内地点数:4)で、チャバネアオカメムシ成虫(合計463頭)及びクサギカメムシ成虫(合計4頭)の誘殺が確認されました。

特にチャバネアオカメムシ成虫は、全地点で5月上旬から継続して誘殺が確認されており、登米地域では依然として増加傾向となっています。山林、特にスギやヒノキ林に隣接するほ場では、被害を受けやすいので注意しましょう。薬剤散布は果樹カメムシ類の活動が鈍い早朝に行うと効果的です。

## 3. これから発生しやすい気象災害への対策について その1:台風

### 台風に対する技術対策

- ・収穫可能な果実はできる限り収穫しておきましょう。その際、農薬使用基準(農薬散布から収穫までの経過日数)に留意しましょう。
- ・普通樹は、主幹、主枝、亜主枝に支柱をし、倒伏や枝裂けを防ぎましょう。わい性台樹や若木は、トレリス又は支柱にしっかり固定し、倒伏、樹体の折損、落果を防止しましょう。
- ・浸水等により、枝葉に付着したごみや泥は、清水をかけるなどして取り除き、病害の伝染源になるのを防ぎましょう。



- 枝葉や果実の損傷が著しい場合には、殺菌剤を散布しましょう。
- 土砂の堆積が多い場合には、幹を中心に直径2m程度取り除き、土が乾いたら耕耘しましょう。
- 倒木があった場合には根が乾かないうちに速やかに起こし、支柱で支えます。枝が裂けた場合には裂開部を縄やかすがいなどで接着します。枝葉の損傷が著しい場合には、切り落とし、塗布剤を塗りましょう。

#### 4. これから発生しやすい気象災害への対策について その2：高温

##### 🍷高温に対する技術対策🍷

- 草生園（下草を生やし管理する園地）では、草の刈り取り回数を増やし（草丈15～20cmを目安）、樹と草との水分競合と蒸散を防ぎます。また、刈り取った草は樹冠下へ敷草しましょう。
- 不要な徒長枝は切除する一方、主枝や亜主枝の背面から発生した細めの枝などは適宜残して直射日光が当たらないようにするとともに、各種資材による遮光や白塗剤の塗布など日焼け防止措置を講じましょう。また、着果過多の場合は、小玉果や障害果を中心に修正摘果を実施して適正着果量としましょう。
- ハダニ類が多発しやすいため、園地の観察を強化し、防除を徹底しましょう。
- 土壌条件によって異なりますが、干天日数を目安とすると、7日程度無降雨状態が続いた場合、20mm（20t/10a）程度を目安にかん水するようにしましょう。
- 台木が M.26 や M.9（マルバカイドウを補助根としていない）で、穂品種が「つがる」、「ジョナゴールド」、「王林」などの場合は、乾燥の影響を特に強く受け、樹勢が極端に低下する場合がありますので、かん水設備がない場合でもスピードスプレーヤー等で水を運搬してかん水しましょう。
- 成熟期の果実の着色不良に対して、反射シートの活用や適切な栽培管理による樹幹内環境の改善をはかりましょう。ただし、反射シートの活用は、日焼け果の発生を助長する場合がありますので注意してください。

#### 5. 今後の管理について～「つがる」等早生品種の着色管理～

「つがる」など9月に収穫する品種の葉摘みの開始時期は、収穫予定の10～15日前です。葉摘みは収穫までに2回に分けて実施し、1回目は果実に直接ついた葉を中心に軽く2～3枚程度除去し、2回目は玉回しと併せて果そう葉の30～40%を上限として除去します。

早生品種の着色管理は残暑の時期に当たります。最低気温が20℃を超えるような日が続く場合は、必要以上に葉摘みを強くしても着色は進みません。翌年の花芽の充実に影響を及ぼすこともあるので、過度な葉摘みはしないように注意してください。

🍷 農薬危害防止運動実施中 🍷（6月1日～8月31日）

◆農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう！

# りんご生育情報(9月号)

令和7年9月18日発行

【発行】宮城県登米農業改良普及センター

電話 0220-22-6127

HP <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

普及センターのホームページでは、過去の技術情報も掲載しています。お手持ちのスマートフォンなどで右のQRコードを読み取るとホームページへ移動できますので、ご利用ください。



## 1. 果実肥大状況

9月10日現在の「ふじ」の果実肥大状況は、タテ径90%、ヨコ径93%と平年よりやや小さくなっています。

表1 果実肥大調査結果 (mm)

	タテ径	ヨコ径
本年	63.8	73.4
平年値	71.1	78.9
平年比	90%	93%

※東和町の測定値。

## 2. 病害虫の発生状況

宮城県病害虫防除所が8月26日に発行した発生予報第8号では、褐斑病、ハダニ類の発生量が「やや多い」、果樹カメムシ類の発生量が「多い」と予報されています。また、斑点落葉病の発生量は「平年並み」となっています。

表2 宮城県病害虫防除所発生予報第8号(令和7年8月26日発行)

病害虫名	発生量
褐斑病	やや多
斑点落葉病	平年並
果樹カメムシ類	多
ハダニ類	やや多

病害虫防除所の9月上旬の現地調査では、県内の複数のほ場でハスモンヨトウの被害葉が確認されており、ほ場によっては卵塊や幼虫の寄生も確認されました。

近年(特に2年前から)、9月半ば以降にハスモンヨトウ幼虫の果樹園及びその周辺での多発が毎年確認されています。ある程度大きくなると樹上から地上に落ちて下草の広葉雑草を食べようになりますが、果実被害も確認されています。昨年は、一部ほ場では樹によって果実被害が目立ちました。

老齢幼虫になるに従って薬剤の効果が低くなるので、若齢幼虫のうちに防除しましょう。卵塊や、卵から孵化したばかりで集団になっている幼虫を見つけたら取り除くのも重要な防除法です。



写真1 ハスモンヨトウの老齢幼虫



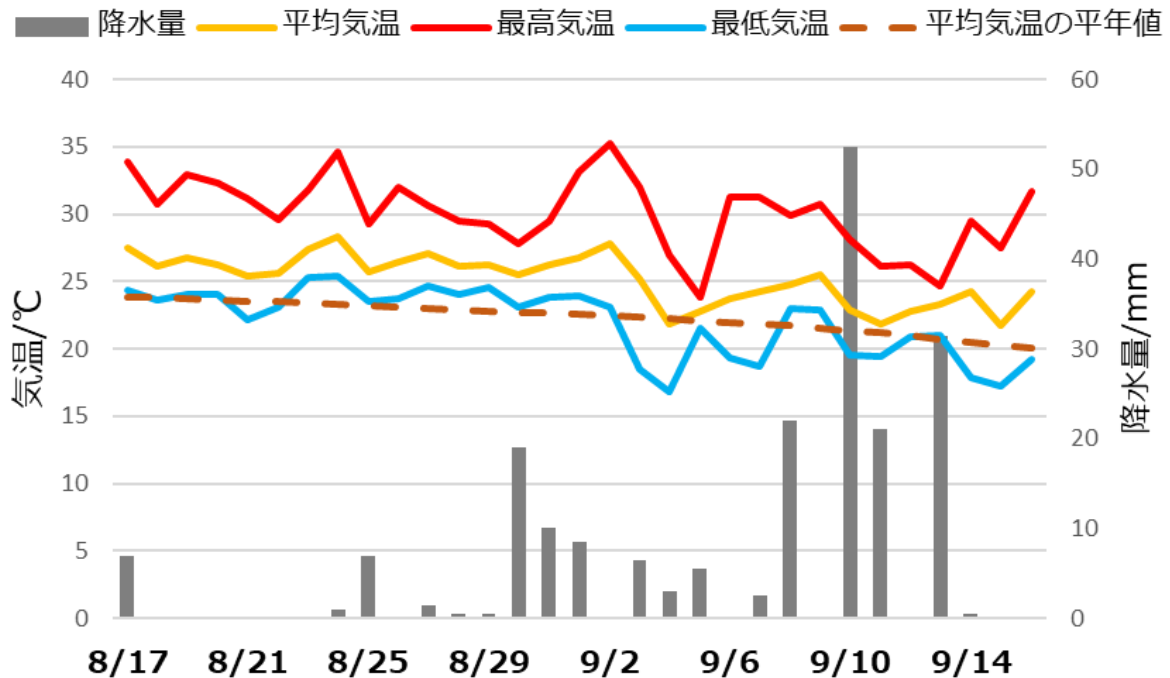
写真2  
ハスモンヨトウの卵塊

写真3 孵化した幼虫

### 3. 気象の推移

8月17日から9月16日までの気温、降水量の推移は図1のとおりです。気温は、平年より高い日が続き、上記期間の平均気温の平年差は+2.5℃となり、ほとんどの日で平年値を上回りました。

図1 8月17日から9月16日の気温・降水量の推移（アメダス地点：米山）



### 4. トピックス～りんごの着色メカニズム～

・果実の赤色の着色 ⇒ 赤い色素であるアントシアニンが生成されることで起こる現象

・アントシアニンの生成

↓ 幼果期・・・どの品種でもアントシアニンが生成される

↓ 肥大生長期・・・アントシアニンの生成が減少

↓ 成熟期・・・赤色品種：生成が盛んになって真赤に色づく  
黄色品種：生成量が少なく若干色づく程度

・アントシアニンを良く生成するための3つの基本条件

**光**：光の中でも着色に強く関与するのは紫外線である

**温度**：15～20℃が適温でアントシアニンがよく生成される

**糖度**：アントシアニンの素となるのはブドウ糖である



図2 着色のイメージ図

参考：「農業技術体系 果樹編 1 リンゴ」（農山漁村文化協会）

### 🍏 秋の農作業安全確認運動実施中 🍏（9月1日～11月30日）

～スローガン「徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策」～

◆シートベルト、ヘルメット着用の徹底！

◆危険個所では原則、迂回を！



# りんご生育情報(10月号)

【発行】宮城県登米農業改良普及センター

電話 0220-22-6127

令和7年10月21日発行

HP <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

普及センターのホームページでは、過去の技術情報も掲載しています。お手持ちのスマートフォンなどで右のQRコードを読み取るとホームページへ移動できますので、ご利用ください。



## 1. 果実肥大状況

10月10日現在の「ふじ」の果実肥大状況は、タテ径75.4mm（平年比97%）、ヨコ径84mm（平年比98%）と概ね平年並となっています。

表1 果実肥大調査結果（mm）

	タテ径	ヨコ径
本年	75.4	84.0
平年値	77.8	85.5
平年比	97%	98%

※東和町の測定値。

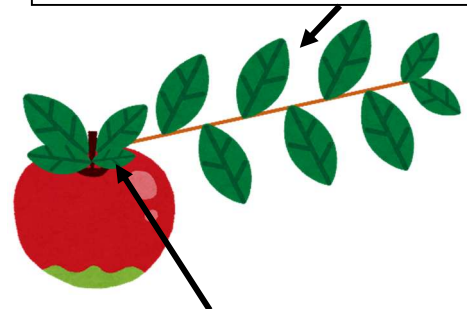
## 3. 「ふじ」の着色管理について

「ふじ」の着色管理の適期です。作業が遅れないよう計画的に実施しましょう。

### ● 葉つみ

- 「ふじ」は収穫30～40日前から開始します。
- 葉つみは収穫までに2回程度に分けて実施します。
  - 1回目：果実に直接ついた葉を中心に除去
  - 2回目：光が十分当たるように果実周囲の葉を除去
- 葉つみが早すぎたり、強すぎたりすると糖度の上昇が妨げられ、着色が不良になるうえ食味を低下させるので、注意しましょう。

副梢葉・新梢葉はできるだけとらない



果そう葉を中心に日陰になっている部分のみを葉つみする

### ● 玉まわし

- 果実が30%程度着色しだしたら1回目を実施し、その後葉つみと合わせて2回目を行うとよいでしょう。
- 日焼け果の発生を助長しないよう、果実温の高いときに実施しましょう。

### ● 反射シートの利用

- 反射シートは収穫前30日ごろから敷きます。
- 一時的に園全体に反射シートを敷くと、日焼けが発生することがあるので、最初の10日程度は樹間に敷き、その後樹冠内に移動する方法が望ましいです。
- 着色が進んでも味が伴わない場合が多いので、十分味をのせてから収穫しましょう。

## 🍎 秋の農作業安全確認運動実施中 🍎 (9月1日～11月30日)

～スローガン「徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策」～

- ◆シートベルト、ヘルメット着用の徹底！
- ◆危険個所では原則、迂回を！





### 3. トピックス ～ 鳥害対策について ～

日本で記録されている約 600 種の鳥のうち、農作物を加害するのは 20 種ほどです。

特に果樹を加害する種としては、カラス類、ヒヨドリ等が挙げられます。今年も当管内の一部地域ではカラス等による被害が確認されていますので、ご注意ください。

#### 🍎 食害する鳥類の特徴

種名	全長	形態と行動の特徴	食性	生息環境
ハシブトガラス	56cm	全身黒色で、嘴は太く、上嘴は湾曲している。 「カア カア」など澄んだ声で鳴くが、濁った声も出す。	雑食性 (動物の死骸や人の残飯、昆虫や種子、果実、鳥の卵やひな等)	市街・地や林のような立体的な環境を好む
ハシボソガラス	50cm	嘴はハシブトガラスより細く、湾曲は少ない。 「ガアァ ガアァ」と濁った声を出す。		農耕地など平面的な環境を好む
ヒヨドリ	28cm	ムクドリと混同されることがあるが、ムクドリより灰色みが強く、尾が長い。ムクドリより樹上で過ごすことが多い。 大きな声で「ピーヨ、ピーヨ」「ピーッ、ピーッ」と鳴く。	昆虫と果実を主に食べる。 甘いものを好み、花や蜜、樹木の新芽、葉野菜なども食べる。	木のあるところなら市街地から山地のいたるところに生息している。

#### 🍏 農家単位でできる対策方法について

##### 1) 防鳥網

防鳥網で作物を覆うのが最も確実な被害防止対策です。

防鳥網は、カラスは 75 mm以下、ヒヨドリやムクドリは 30 mm、スズメは 20 mm以下 (可能なら 19 mm以下) の網を使用するのが望ましいです。

また、農研機構では、果樹園のカラス対策「くぐれんテグス君」、その簡易改良型「くぐれんテグスちゃん」や、防鳥網の簡易設置「らくらく設置 3.5」などの対策技術が開発されています。下記 HP から様々な対策技術が検索できますので、ご覧ください。

(<https://www.naro.affrc.go.jp/org/narc/chougai/>)

##### 2) 追い払い道具類

吹き流しやCD、市販の各種防鳥機器、カラスの死体をつるすなどの方法は、一時的には効果がありますが、鳥にとって実害をもたらさないため、日数の経過とともに慣れて効果がなくなります。

カラスでは、見慣れない物や普段と違う状況に対する警戒心が他の鳥以上に強い場合もあるため、工夫して使えば追い払い道具も有用な場合があります。具体的には、追い払い道具は要防除期間のみに設置し、期間終了後はただちに片づけること、道具の種類や設置位置、組み合わせなどを頻繁に変えることで、常にカラスに「ここは変だぞ」と思わせておく工夫が大切になります。

参考：「鳥類の生態と被害対策-カラスとヒヨドリを中心に-・2024」(農研機構)

